HITACHI
Inspire the Next

会社概要2016

株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
電話(03)3258-1111(大代)
www.hitachi.co.jp

GM-830 Printed in Japan 2016.04

お客さまとの「協創」を通じて、
社会イノベーション事業のさらなる加速を。

創業以来、100年以上にわたり、日立は社会や暮らしを支えるインフラづくりに注力してきました。

毎日の生活に欠かせないエネルギーや水を提供するシステム、人々の安全で快適な移動を支える交通システム、

さらには、健診・予防、治療、予後というケアサイクルを通じて人々の健やかな暮らしに貢献するヘルスケアなど、

幅広い分野での経験と実績は、国内外で高い評価を得ています。

日立は、長年培ってきたインフラ技術と高度なITを組み合わせた「社会イノベーション事業」を通じて、

世界各地のお客さまや地域が抱える課題を解決するソリューションを提供しています。

社会イノベーション事業をグローバルに展開するためには、世界各地にいらっしゃるお客さまの近くで対話を重ね、

課題を共有し、解決策をお客さまと「協創」することが重要です。

日立グループが一丸となり、お客さまの課題解決のためのイノベーションを創出することで、

世界の変化をリードしていきたいと考えています。

このような活動のベースにあるのは、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」

という日立の企業理念です。これからも日立は、チームワークとグローバル市場での豊富な経験をもとに、

活気あふれる社会づくりに貢献してまいります。

執行役社長兼CEO

東原 敏昭

今日よりも暮らしやすい明日へ。

たとえば、毎日の暮らしに欠かせない電気や水であったり、
通勤・通学や旅行など、人々の移動を支える交通であったり。
これまで日立は、社会インフラを築く仕事を通じて、
もっと安全・安心で、もっと快適・便利な世の中づくりをめざしてきました。
こうして長年培ってきたインフラ技術と最先端のITを組み合わせて、
時代が直面しているさまざまな課題を解決していくのが、
日立の社会イノベーション事業です。これからも日立は、
明日をもっと暮らしやすくするイノベーションを生み出すことで、
世界の期待に応えていきたいと考えています。

ENERGY

エネルギーの未来を考えること。
それは、人と地球の未来を考えること。

私たちの社会は、暮らしは、もはやエネルギーなくして成り立ちません。未来を思い描くときも、いかに効率よく、環境負荷をかけずに、エネルギーを生み出していくかが極めて重要になります。日立は、このような課題を解決するため、電力の安定供給、エネルギー利用効率の向上、CO_2排出量の削減をさまざまな角度から追求。再生可能エネルギー、送配電システム、原子力発電などの電力インフラを世界各地でつくりあげています。また、先進のITを駆使し、電力需給バランスの最適制御を実現するスマートグリッドや蓄電システムなどにも積極的に取り組み、エネルギーソリューションをトータルに提供しています。

ハワイ・島嶼（しょ）域スマートグリッド実証＊

ハワイ州マウイ島では、再生可能エネルギー（RE）の導入が進んでおり、2030年には島内の全体発電量の40%がREに置き換わる予定です。日立は、こうしたREの導入に伴う周波数変動などの問題解決や効率的利用について取り組んでいます。

＊経済産業省と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の補助による実証事業です。

蓄電システム

日立の情報通信、制御技術、パワーエレクトロニクス、蓄電池などのノウハウを結集したオールインワンパッケージの蓄電システムです。風力発電、太陽光発電などの自然エネルギーを安定利用するために必要な、需給バランス、周波数・電圧維持、予備電力確保などのニーズに対応します。

太陽光発電システム

日立の太陽光発電には、国内最大級＊となる82MWのメガソーラーを受注するなど、電力事業用、産業用の発電システム分野における豊富な実績があります。設計・調達・製造・据付・試運転まで、メガソーラー発電システムの一括請負が可能です。

大分ソーラーパワー株式会社　大分ソーラーパワー（82MW）

＊2015年9月現在、運転開始ベース

電力系統監視システム

中央給電指令所システムは、24時間365日、電気の需要を監視し、供給力をコントロールすることで、安定供給に努めます。また、基幹系統給電所システムと相互バックアップを構成しており、非常時には運転員の移動なく運転を継続し業務を再開できます。

関西電力株式会社　中央給電指令所システム

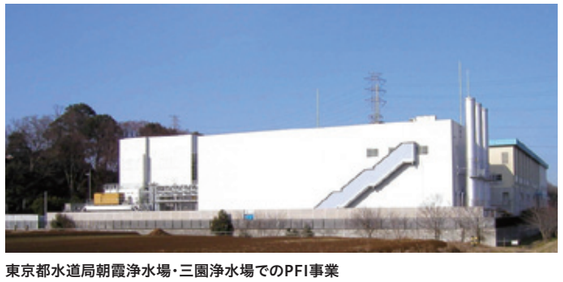
WATER

世界中から水不足がなくなったとき、ここは本当の「水の惑星」になる。

地球は「水の惑星」とも呼ばれるように、地球表面には約13.9億km³もの豊富な水が存在します。しかし、そのほとんどが海水であり、私たちが使用できる河川・湖などの淡水源は全体の0.01%*に過ぎません。しかも、世界は深刻な水不足に直面しています。新興国の著しい人口増加などにより、世界ではまだ多くの人が安全な飲料水を利用できていません。このような課題に応えるため、日立は海水淡水化技術の開発を積極的に推進するとともに、国の最先端研究開発支援プログラムにも参画。さらに上水・下水・産業廃水を連携処理し、都市の水循環を効率化するシステムなど、さまざまな水インフラをグローバルに提供しています。

＊出典：国土交通省「日本の水資源」

モルディブ共和国における上下水道事業
安定した上下水道サービスの提供と経営効率の向上のため、上下水道の運営事業に参画。海水淡水化装置を約200基納入し、首都のマレ島では配管情報の管理システムを構築。さらに、インテリジェントウォーターシステムの導入を積極的に推進し、事業運営の合理化を追求します。



東京都水道局朝霞浄水場・三園浄水場でのPFI事業
2001年9月、「朝霞浄水場・三園浄水場常用発電設備等整備事業」の運営会社として「朝霞・三園ユーティリティサービス株式会社」を設立し、民間の資金、ノウハウ、技術的能力を公共施設などの建設、維持管理、運営などに活用することで、効率的な公共サービスの提供を行う「PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）事業」の事業者としてビジネスを始めています。

UAEドバイ首長国における再生水事業
都市開発ラッシュに伴い、生活排水による水質の悪化などが社会問題となっているドバイ首長国で、膜技術を利用した下水再利用システムを設置。この設備で処理された再生水を近隣の人工池の噴水用に使用し、地域の環境調和に努めています。

水インフラを効率的に管理する情報・制御システム
上水、下水、再生水などの各処理施設の運用状況や、各プロセスにおける送配水量など、さまざまなデータをリアルタイムで管理。それらをもとに適切な制御を行い、水循環システム全体の経営効率を最大化することを可能とします。

TRANS-PORTATION

渋滞がなく、環境負荷も少ない鉄道システム。その進化が、人々の移動を快適にする。

街から街へ。国から国へ。人々がより安全・快適に移動する手段として、鉄道は発達してきました。近年では、環境負荷が少ない交通システムとしても注目を集めています。わが国唯一の鉄道総合システムインテグレーターである日立は、こうしたニーズに応えるため、車両から運行管理システムまで幅広く提供。その実績は鉄道発祥の地でも認められ、英国IEP(都市間高速鉄道計画)向けの高速車両Class 800/801の開発・製造だけでなく、保守事業も担当することになりました。これからも日立は、モノレールシステムや新幹線運行管理システムなどを含め、人々の移動を快適にするソリューションを提供していきます。

IEP : Intercity Express Programme

英国都市間高速鉄道計画向け高速車両 Class 800/801
ロンドンと主要都市を結ぶEast Coast Main LineおよびGreat Western Main Lineで走行する老朽車両を置き換える計画用の車両を開発しました。非電化区間も走行するため着脱可能なディーゼルエンジン付き発電機を搭載しています。

英国向け高速車両 Class 395
英国初の高速専用線であるHigh Speed 1と在来線を直通走行可能な交直両用の高速車両であり、「A-train」コンセプトの下、軽量・高速化技術を英国基準に適応させて開発しました。

韓国・大邱市向けモノレールシステム
日立のモノレールシステムは、軌道桁がスマートでシンプルな高架構造物であるため、都市環境に調和するほか、建設コストの削減とリサイクル可能なアルミ車体の採用を通し、環境に配慮したシステムです。

九州新幹線指令システム SIRIUS
信号機やポイントのリアルタイム自動制御、列車ダイヤ予測による運転整理支援といった高信頼リアルタイム制御システムが、新幹線の高速・高密度・正確・安定輸送を支えています。

HEALTHCARE

誰もが願う「健康」のために、
何ができるかを追求していくこと。

高齢化社会の進展、生活習慣病の増加、国民医療費の増大など、ヘルスケア分野を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中、ヘルスケアは21世紀の社会を支えるために必要不可欠なインフラになると日立は考えます。例えば、ヘルスケア関連施設などから得られるヘルスケアデータを情報基盤ネットワークで結ぶことで、個人ごとにより的確で効率的なヘルスケアサービスが実現可能となり、生活の質を向上させるでしょう。これからも日立は、「予防・健診」「検査・診断」「治療」「予後」というケアサイクルの中で生じる多様なニーズに対し、ITと医療技術を駆使した革新的なソリューションを提供することで、誰もが健康で安心して暮らせる社会をめざしていきます。

生化学自動分析装置

科学的根拠に基づく医療を実践するには、その根拠となる正確な検査データを迅速に臨床側に提供することが求められます。こうしたニーズに応えるのが、日立の生化学自動分析装置です。血液や尿を検体とし、中性脂肪、コレステロール、尿酸などを測定し、病気の早期発見や診断、治療効果や予後の経過確認に寄与します。医療の質的向上だけでなく、患者さんの待ち時間短縮というサービスの向上にも貢献します。

北海道大学病院陽子線治療センター

粒子線治療システム

粒子線（陽子線、重粒子線）を用いるがん治療は、患部を的確に照射することができ、正常な細胞への影響が少ない治療法として注目を集めています。日立は、腫瘍の形状に合わせて高い精度で照射できるスポットスキャニング照射技術を採用した陽子線治療システムを開発。さらに高性能化に向けた研究・開発にも取り組んでいます。

東京女子医科大学

術中MRIシステム

広い検査空間を実現した日立のオープンMRI。その開放性と漏洩（えい）磁場が少ないという特長から、術中MRIシステムとして治療分野で利用されています。脳腫瘍摘出手術において、腫瘍範囲を術中MRIシステムでリアルタイムに撮影、脳腫瘍の的確な摘出を支援することで、術後5年生存率の向上および患者さんの良好な予後に貢献しています。

MRI：Magnetic Resonance Imaging

プロジェクト調印式後の記者会見の模様

ITを活用したヘルスケアサービスの実証プロジェクト

英国マンチェスター地域における国民保健サービス［NHS England（Greater Manchester）］と日立によるプロジェクト。ヘルスケアサービスの向上と医療費抑制が主な狙いです。ITによる予防支援技術を駆使した生活習慣病対策プログラムの実施に向けて、日立の生活習慣病対策ソリューションのノウハウや技術が活用されています。

NHS：National Health Service

広範な事業領域を誇る日立グループ。
そこで長年培った技術と経験のシナジーが、
次なるイノベーションを生み出します。

- 情報・通信システム Information & Telecommunication Systems
- 電力システム Power Systems
- 社会・産業システム Social Infrastructure & Industrial Systems
- 電子装置・システム Electronic Systems & Equipment
- 建設機械 Construction Machinery
- 高機能材料 High Functional Materials & Components
- オートモティブシステム Automotive Systems
- 生活・エコシステム Smart Life & Ecofriendly Systems
- その他（物流・サービス他） Others (Logistics and Other services)
- 金融サービス Financial Services

最先端のITを駆使し、お客さまとイノベーションを協創します。

日立が社会イノベーション事業をグローバルに展開していくうえで、最先端のIT活用は欠かせません。いまやあらゆる事業領域において、より高度な製品やサービスを提供するには、ITが極めて重要なカギとなります。

近年、ITの分野で新たな課題となっているのは、業務データに加え、IoTと呼ばれるモノからの情報や、SNSなどのヒトからの膨大なデータ、いわゆるビッグデータをいかに管理・分析し、そこから新たな価値を導き出すかということ。それは、社会や企業におけるイノベーション創出にも大きく関わるテーマです。

日立は、お客さまをシステム管理から解放し、常に最新の情報システム環境を利用可能にする、高信頼のクラウドサービスの提供や、世界トップレベルのシェアを誇り、日立独自の先進的な仮想化機能などをミッドレンジモデルにまで拡張したストレージを核に、ビッグデータのセキュアな運用・管理を実現するプラットフォームソリューションを提供しています。また、お客さまとともにビッグデータから新たな価値を生み出すデータ・アナリティクス・マイスターサービスを提供。数理解析、IT、実務の知識を併せ持つマイスターと、データ分析の専門家、システムコンサルタントなどによるチーム体制のもと、お客さまの業務を理解し、ビジョンを共有したうえで、ビッグデータの利活用を支援します。

さらに、情報システムを取り巻く脅威やさまざまな課題に応じたソリューションを提供し、情報セキュリティの確保、コンプライアンスや事業継続計画（BCP）策定支援など、お客さまの企業価値向上をサポートします。

また、急速な経済発展とともに、金融・決済のインフラ整備が急務となっているインドにおいて、ATMやPOSシステムによるペイメントサービスを提供しています。そのほか、中国や東南アジアでATMやモバイルバンキングシステムを提供するなど、金融ソリューションのグローバル展開にも積極的に取り組んでいます。

ディスクアレイシステム
「Hitachi Virtual Storage Platform」
［株式会社日立製作所］

日立統合プラットフォーム
「Hitachi Unified Compute Platform」
［株式会社日立製作所］

指静脈認証装置付きATM
［日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社］

インドでのペイメントサービス
［日立ペイメントサービス社］

IT: Information Technology　IoT: Internet of Things　SNS: Social Networking Service　BCP: Business Continuity Plan　ATM: Automated Teller Machine　POS: Point of Sale

まちづくりも、モノづくりも、
環境に配慮した技術で支えます。

誰もが安全・安心・快適に暮らせる社会を築くためには、さまざまな社会インフラの存在が必要不可欠となります。そして、社会インフラを新たに築いたり、再構築していくうえでは、CO_2排出量を削減し、低炭素社会を実現することが同時に求められます。日立は、鉄道システムはもちろん、水やエネルギーなどのインフラシステムにおいても、このような視点を大切にし、環境に配慮したまちづくりを推進しています。

鉄道システムの分野では、わが国唯一の鉄道総合システムインテグレーターとして、車両から運行管理・信号システム、変電システム、情報サービスまで幅広い分野で確かな実績を上げてきました。中でもリサイクルがしやすいアルミ車両や、鉄道用ハイブリッド駆動システム*は、環境への配慮という点でも高い評価を獲得。こうした実績は海外でも認められ、英国の都市間高速鉄道計画(IEP)において、日立は車両製造と保守事業を担当することとなりました。

水環境ソリューションの分野では、上下水処理や海水淡水化などの高度な水処理システムとICTを融合したインテリジェントウォーターシステムの実現をめざしています。それは、健全な水環境と環境負荷低減を両立させ、限られた水資源の運用最適化と環境保全を図るシステムです。

さらに、都市空間における快適な移動を実現する昇降機をグローバルに提供するとともに、省エネルギー、セキュリティ、ファシリティに関するソリューションで、付加価値の高いサービスをトータルに提供しています。

A-trainコンセプトの阪急1000系車両
(阪急電鉄株式会社納め)
[株式会社日立製作所]

高速・大容量エレベーター
(東武タワースカイツリー株式会社納め)
[株式会社日立ビルシステム]

*東日本旅客鉄道株式会社と共同開発　ICT: Information and Communication Technology

また日立は、創業の原点でもあるモータや、ポンプ、インバータ、変圧器などの産業機器事業も幅広く展開しています。受配電ネットワークに不可欠な変圧器においては、業界トップクラスの省エネルギー効率と大きなCO_2削減効果をもたらすアモルファス変圧器を開発。社会や企業を支える情報システムや電気設備を停電から守るUPS(無停電電源装置)においても、高効率化・省エネルギー化を追求し、大幅な電気料金節約とCO_2排出量削減を実現しています。日立では、高い競争力を持つこれらの産業機器を、社会イノベーション事業を支えるキープロダクツと位置づけ、これからもグローバルに提供していきます。

総合的な省エネルギー、節電、CO_2削減の対策としては、工場、病院、商業施設など、さまざまな施設で空調や熱源設備の高効率化に取り組むとともに、コージェネレーションシステム、排熱有効利用システムなども提供。お客さまの設備投資の負担を抑え、省エネルギーの包括的なサービスを提供するESCO事業も数多く手がけています。

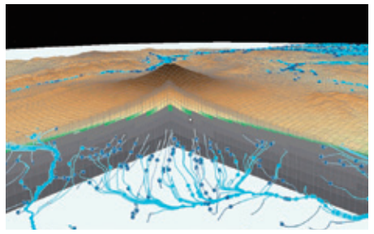
このほか、環境負荷の少ないプラントづくりもグローバルに展開しています。

さらに日立は、国の安全保障に関わる情報伝達や意思決定を支援する指揮統制システム、人工衛星画像処理システムなどの各種ディフェンスシステムや、広域監視・警備ソリューション、水循環シミュレーションなどの危機・防災管理事業も手がけ、社会インフラの安全保障に寄与しています。

アモルファス変圧器
[株式会社日立産機システム]

S-SBR製造プラント
Asahi Kasei Synthetic Rubber Singapore Pte. Ltd.
[株式会社日立製作所]

省エネルギーソリューション(ESCO事業)
[株式会社日立製作所]



水循環シミュレーションシステム
[株式会社日立製作所]

ESCO : Energy Service Company　S-SBR : 溶液重合法スチレンブタジエンゴム

Power Systems 電力システム

電力の安定供給と
低炭素社会の実現をめざします。

私たちの生活に欠かすことのできない電気。これから将来にわたり、いかに環境負荷を低減しながら安定的に電力を供給していくかは地球規模の課題です。日立はこうしたニーズに応えるため、高効率で信頼性の高い発電システム、送変電システム、蓄電システム、エネルギーマネジメントシステムを幅広く開発し、グローバルに提供しています。

発電時にCO_2を排出しない原子力発電においては、機器の開発・製造からプラント建設・運転支援、原子燃料サイクル、放射性廃棄物処理、予防保全まで一貫して提供できる技術力を持ち、グローバルに事業を展開しています。

これからのエネルギー源として期待されている自然エネルギーを活用した発電システムにも積極的に取り組んでいます。太陽光発電においては、高効率な機器だけでなく、長年培った電力関連技術やシステムインテグレーションのノウハウ、日立グループの総合力を生かし、資金調達から運営・保守まで、メガソーラーシステムを一括で提供することができます。風力発電においては、山岳・丘陵地帯で高い発電効率が期待でき、信頼性の高いダウンウィンド方式を採用した風車を提供するとともに、洋上への展開や大型機種の提供も進めています。

さらに、送電ロスを低減するための高電圧化や、大規模発電所への対応を目的とした大電流化が進む送変電分野においても、豊富な実績があり、信頼性の高い変圧器や遮断機などを世界各地に納入してきました。近年では、先進のITを駆使した蓄電システムやエネルギーマネジメントシステムなどにも注力しており、エネルギーソリューションをトータルに提供しています。

原子力発電システム
北陸電力株式会社 志賀原子力発電所2号機
［日立GEニュークリア・エナジー株式会社］

電力事業用メガソーラー
東京電力株式会社 扇島太陽光発電所
［株式会社日立製作所］

5MWダウンウィンド型風車
日立ウィンドパワー株式会社
鹿島港深芝風力発電所
［株式会社日立製作所］

1,100kVガス絶縁開閉装置
中華人民共和国・国家電網公司
［株式会社日立製作所］

Electronic Systems & Equipment 電子装置・システム

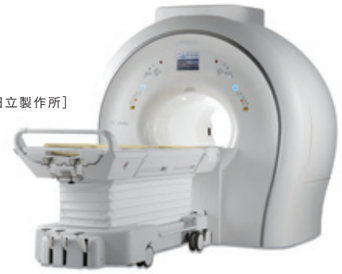
製品やサービスの進化を
力強くバックアップします。

高齢化社会の進展、生活習慣病の増大とともに、ますますニーズが高まりつつあるヘルスケア分野において、日立は多彩な装置、システム、サービスを提供しています。中でも、開口部を楕（だ）円形にして開放感を高めることで体格の大きい方や狭い場所が苦手な方へのやさしさも追求したMRI装置や、診断領域特有の精密検査から慢性疾患領域の日常検査まで、幅広い診療科・用途に合わせて豊富にラインアップをそろえる超音波診断装置などは高い評価を得ています。

また日立は、いまやエレクトロニクス製品の高機能を実現するためには欠かせない、半導体などの電子デバイスを製造・検査する装置も幅広く提供。半導体解析だけでなく、ナノテク材料研究にも活躍する走査電子顕微鏡をはじめ、独自の微細形状加工技術や計測検査技術などを駆使しながら、半導体用、電子部品用などの高精度な製造・検査装置を開発し、半導体パッケージ、スマートフォンなどの市場にソリューションを提供しています。さらに病院や検査ラボ向けに高い信頼性と使いやすさを追求した医用分析装置も手がけ、検査環境をサポートしています。

このほか、鉄道における事故や犯罪への対策強化のために、車両の前方や室内、駅プラットホームの状況映像を鮮明な画質でモニタに表示したり、記録することができる鉄道車両搭載監視カメラシステムを開発・提供しています。また、小型・軽量化、低騒音・低振動化や省エネルギー化を追求した電動工具を多彩にラインアップ。近年では、高効率なeモータ（ブラシレスモータ）と電子制御により低騒音化とモータ効率向上を両立させ、作業負荷に合わせて回転数を自動的に切り替えるコードレスディスクグラインダなどが、世界中のプロユーザーから大きな支持を集めています。

電界放出形走査電子顕微鏡
［株式会社日立ハイテクノロジーズ］



MRI装置
［株式会社日立製作所］

鉄道車両搭載監視カメラシステム
左／監視モニタ、下／屋外ドア用監視カメラ
［株式会社日立国際電気］

コードレスディスクグラインダ
G18DBVL形（輸出仕様）
［日立工機株式会社］

Construction Machinery 建設機械

多種多様な建設機械で、世界各地のニーズに応えます。

「機械」を進化させ、豊かな生活空間をつくる「ひと」と「作業」の関係をより快適に、より高度に、より効率的にする。こうした考え方のもと、日立は油圧ショベル、ホイールローダ、道路機械など、さまざまな建設機械を提供しています。その活躍フィールドは、先進国から新興国までグローバルに広がっており、都市開発、インフラ整備、資源開発などで需要がますます高まってきています。
こうした中で日立は、使用される国の排ガス規制や市場ニーズに合わせた新型の油圧ショベルやホイールローダ、海外の大規模鉱山で活躍する超大型油圧ショベル、ダンプトラックなど、グローバルニーズに対応した建設機械を開発・提供しています。
さらに、環境負荷軽減のための技術開発も推進。例えば、ハイブリッドシステムと省エネ油圧システムの融合により、標準機に比べ燃料消費量をさらに低減したハイブリッド油圧ショベルをはじめ、排ガスゼロでCO_2排出量削減に大きく貢献する電動式油圧ショベルの開発にも取り組んでいます。
また、日立が得意とするICT（情報通信技術）を活用し、建設機械1台ごとの稼働状態を収集・分析することで、稼働率の向上や機械の寿命を延ばし、トータルでのライフサイクルコスト低減に貢献します。

欧州で稼働する油圧ショベルZX250LC-5B
［日立建機株式会社］

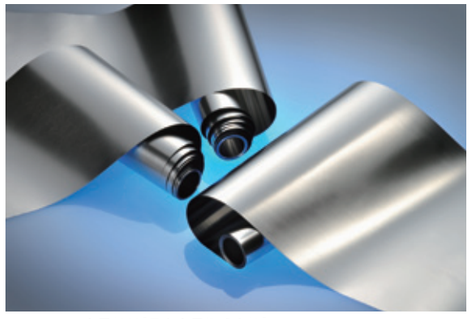
欧州で稼働するホイールローダZW310-5B
［日立建機株式会社］

超大型油圧ショベルEX8000-6とダンプトラックEH5000AC-3
［日立建機株式会社］

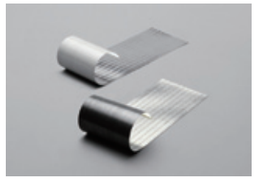
High Functional Materials & Components 高機能材料

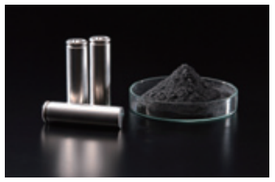
イノベーションのカギとなる、独創的な材料・部品をつくります。

日立が推進する社会イノベーション事業の構成要素となるのは、インフラ技術とITを組み合わせた各分野のシステム、その先進性や競争力を支えるモータ、インバータなどのキーデバイス、そして高機能な材料・部品です。いまやイノベーションを創出していくうえで、その原点のような存在となる高機能材料は欠かせません。
日立は長年培ってきた独自技術をベースに、社会の期待に応えるような材料・部品の開発を積極的に推進してきました。例えば、高効率で小型・軽量の変圧器などを実現するアモルファス金属や、最も磁気特性に優れ、さまざまな分野で小型・軽量化や高効率・省エネルギー化に貢献する希土類磁石などの金属材料。鉄道車両用ケーブル、ハイブリッド自動車のモータ用巻線など、持続可能な社会づくりに欠かせない電線材料。これらの材料は、その独創性や革新性により、各方面から高い評価を得ています。
また、高容量で放電負荷特性に優れたリチウムイオン電池用負極材や、金属のような熱伝導性とゴムのような柔軟性を併せ持ち、CPUの放熱に役立つ高熱伝導シートなど、さらなる機能アップをもたらす画期的な化学材料も多彩に提供しています。


アモルファス金属材料［日立金属株式会社］

鉄道車両用電線・ケーブル
［日立金属株式会社］


高熱伝導材料
［日立化成株式会社］


リチウムイオン電池用負極材
［日立化成株式会社］

CPU: Central Processing Unit

Automotive Systems　オートモティブシステム

クルマと社会の
よりよい関係を築きます。

日立の自動車機器事業は、日本、北中南米、欧州、中国・アジアなどを拠点として、「環境」「安全」「情報」の3つの分野にわたり、多彩な技術や製品を提供しています。
燃費向上やCO_2排出量削減がますます求められる「環境」分野では、燃料エネルギーを無駄なく運動エネルギーに変換するエンジンマネジメントシステムから、モータ、インバータ、リチウムイオン電池まで幅広く手がけています。
「安全」分野では、乗り心地と操縦安定性を高いレベルで両立するセミアクティブサスペンションや、ブレーキなどを提供。
さらに「情報」分野では、車載情報機器をクラウド情報ネットワークで結ぶことで、ナビゲーションと会話をしながら目的地を絞り込む機能や、メールの送受信、音楽再生も、ドライバーに負荷をかけない音声コントロールを可能にしました。将来的には、ADASや、センシング技術などで安全運転を支援する安心・安全システムとの連携に向けて開発を進めていきます。

ADAS: Advanced Driver Assistance System

モータ
［日立オートモティブシステムズ株式会社］

セミアクティブサスペンションシステム
［日立オートモティブシステムズ株式会社］

インバータ
［日立オートモティブシステムズ株式会社］

リチウムイオン電池
［日立オートモティブシステムズ株式会社］

AV Navi MAX775W
［クラリオン株式会社］

Smart Life & Ecofriendly Systems　生活・エコシステム

家庭、オフィス、地域などの
快適な暮らしをサポートします。

日立の生活・エコシステム事業は、冷蔵庫や洗濯機などの白物家電製品、ルームエアコンやパッケージエアコンなどの空調システム製品、およびLED照明や住宅用太陽光発電システムなどの環境ビジネス製品を提供しています。商品開発においては、基本性能や省エネルギーの追求に加え、白物家電製品ではお客さまの使い勝手の向上や高品質なデザイン、空調システム製品では快適な空間、環境ビジネス製品では施工性の向上などの新しい価値を提案しています。また、グローバル市場において、日本で培った技術を生かした高付加価値製品を展開しています。
これからも独自の省エネルギー技術などにより、環境負荷低減に貢献するとともに、「お客さま視点の発想」で開発した付加価値のある製品を通じて、ますます快適な社会づくり、暮らしづくりをサポートしていきます。

冷蔵庫「R-X7300F(ZT)」
［日立アプライアンス株式会社］

タテ型洗濯乾燥機
「BW-D11XWV(N)」
［日立アプライアンス株式会社］

LEDシーリングライト「LEC-AHS1410EH」
［日立アプライアンス株式会社］

家庭用エコキュート「BHP-FV37PD」
［日立アプライアンス株式会社］

Others (Logistics and Other services)　その他(物流・サービス他)

物流や保険など、さまざまな
サービスを提供します。

日立は、物流サービスにも取り組んでいます。高度な物流技術、現場ノウハウ、多様なサービスメニューによる安全・安心・グリーン・グローバル・ワンストップな物流サービスを推進。実績のある3PL(システム物流)事業、長年のキャリアを誇る重量・機工事業、充実のネットワークを生かしたフォワーディング事業の三位一体で、総合物流サービスを提供しています。今後は、北米・欧州・中国・アジアでの域内輸送ネットワークを拡充するとともに、クロスボーダーやインターモーダル輸送*による連携を強化し、グローバルシステム物流事業のさらなる拡大を図ります。
また、企業経営に役立つ保険、資産を守る保険、災害に備えるサービスなどにより、法人のお客さまのリスクマネジメントを支援。さらに個人向けに、生命保険から医療保険・がん保険、自動車保険、住まいの保険、老後・介護保険までさまざまな保険サービスも提供しています。

3PL: 3rd Party Logistics
*インターモーダル輸送: トラック・船・鉄道を組み合わせた複合一貫輸送

350tコンビネーショントレーラ
［株式会社日立物流］

お客様契約センタ
［株式会社日立保険サービス］

Financial Services　金融サービス

お客さまのニーズに応える
金融サービスを提供します。

「社会とお客さまから求められる金融サービスの創造を通して、より豊かな社会づくりに貢献する」こうした考え方のもと、日立は、各種リースや保証・保険など、さまざまな機能を組み合わせた付加価値の高い金融サービスを提供しています。
近年は、風力発電などの再生可能エネルギーをはじめ、ヘルスケア、農業分野など、安全・安心な生活に向けた社会インフラ構築のためのファイナンス・スキームの提供、中小企業のIT化・業務効率化の支援を目的としたベンダーファイナンス、およびビークルソリューション事業などに注力しています。日立は、地域に密着した金融サービス事業をグローバルに展開し、お客さまのニーズに応えるソリューションを提供しています。

地域に密着した金融サービス事業をグローバルに展開
［日立キャピタル株式会社］

Corporate Social Responsibility

企業の社会的責任

経済的価値と社会的価値をステークホルダーと「協創」し、安全・安心・快適に暮らせる社会づくりに貢献。

私たちの社会は地球温暖化や貧困、社会的差別などさまざまな問題に直面しています。そして、その解決に向け企業への要請や期待が高まっています。社会からの期待に耳を傾け、その声を事業活動に取り入れる姿勢は社会における企業への信頼度向上につながります。日立は、すべてのステークホルダーと企業理念を共有し、ともに社会の課題を見いだし、解決していく協創を推進することで、社会の持続的な成長とグローバル企業としての経済的成長の両立をめざします。

環境への取り組みでは、地球温暖化の防止、資源の循環的な利用、生態系の保全を重要な3つの柱として、製品の全ライフサイクルにおいて環境負荷を低減させるモノづくりをグローバルに推進しています。サプライヤーとは、サプライチェーン全体における環境や人権リスクなどの課題への対応や紛争鉱物への対応にともに取り組んでいます。日立製作所では、外国人を含む過半数の社外取締役で取締役会を構成し、グローバルで多様な視点を経営へ反映させるとともに、監督機能を強化するガバナンス体制をとっています。さらに、2015年度から米州、中国、アジア・パシフィック、EMEA・CIS*の4地域に総代表を任命し、グローバル市場での成長を加速するために「自律分散型グローバル経営」体制への変革を図っています。 またグループ全体で、ダイバーシティ＆インクルージョンを実践し、グローバル共通の人事制度・評価システムのもとで従業員の個性や志向を大切にした価値創造に取り組むなど、人財の多様化を推進しています。2013年度に策定した「日立グループ人権方針」に基づく取り組みを強化するとともに、人財育成を中心としたグローバルな社会貢献活動を継続して実施しています。

これからも日立は、グローバル企業として、社会から何を求められているのか、どのような社会的責任を担っているのかを常に意識し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

＊EMEA・CIS：欧州、中東、アフリカおよび独立国家共同体

エコファクトリー＆オフィス

カーオーディオなどを欧州向けに生産しているクラリオン・ハンガリー・エレクトロニクスは、照明を高効率タイプに交換し、年間約450MWhの節電を実現。また洗浄工程の排水を水と汚泥に分離、排水は再生し、汚泥は焼却処分を行うなど、エコファクトリーとしての活動を実施しています。

［クラリオン・ハンガリー・エレクトロニクス］

若手女性向けキャリアセミナーの開催

入社後、早い段階から自身のキャリアについて考え、仕事とライフイベントとの両立など将来への漠然とした不安を払拭し、キャリアを切り拓いて活躍するためのヒントを得ることを目的とした「日立グループ若手女性向けキャリアセミナー」を2014年度より開催しています。

［「日立グループ若手女性向けキャリアセミナー」の様子］

生態系の保全

日立金融設備系統（深圳）有限公司は、同社近くで複数の外来種植物が生育していることが確認されている蓮花山公園で、自然の生態系保護のための外来種生物の除去活動を行いました。今後もこの活動を継続し、従業員の生態系保全や環境保護への意識を高めていきます。

［日立金融設備系統（深圳）有限公司］

性的マイノリティ（LGBT）研修の実施

日立は、人財の多様性が広がる中、差別や偏見に対する教育などを通じて、性的マイノリティ（LGBT*）をすべての従業員が受け入れ、理解し、また尊重するよう努めています。人財部門担当者を対象にした研修や、人権週間に合わせた各グループ会社での勉強会を実施しています。

＊LGBT：L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシャル）、T（トランスジェンダー）

「日立ボランティア・セミナー」の開催

2002年から日立グループ従業員とその家族を対象に「日立ボランティア・セミナー」を開催しています。2014年度は、プログラム開始からのセミナー実施回数が50回となりました。今後も従業員のボランティア参加への第一歩を後押しする取り組みとして継続していきます。

［日立ボランティア・セミナーでの稲刈り体験］

グローバル従業員サーベイの実施

日立は、2013年度からグローバル従業員サーベイを実施しています。2014年度の2回目のサーベイでは「会社への誇り」など全項目で前回より上昇するなど改善がみられています。また各部課長層が自分のチーム状況を確認するためのプロセスを導入するなど、日立全体のエンゲージメントの向上を実現していきます。

CSRへの取り組み www.hitachi.co.jp/csr　環境への取り組み www.hitachi.co.jp/environment　社会貢献活動 www.hitachi.co.jp/csr/sc　サステナビリティレポート www.hitachi.co.jp/csr/download
●詳細は上記のURLをご参照ください。

Research & Development

研究開発

お客さま起点のグローバルな研究開発体制で、社会イノベーション事業の拡大を。

エネルギー、環境をはじめ、食料や水、交通、セキュリティなど、さまざまな領域において、社会やお客さまが直面している課題はますます複雑化しています。こうした課題に応えるソリューションを提供する社会イノベーション事業においては、お客さまの近くで課題を共有し、お客さまとともに解決策を生み出していく、協創の取り組みが重要になります。

そこで日立は、お客さま起点のグローバルな研究開発体制を確立するため、従来の中央研究所、日立研究所、横浜研究所の国内3研究所とデザイン本部および海外研究拠点を、4つの「社会イノベーション協創センタ」、9つの「テクノロジーイノベーションセンタ」、「基礎研究センタ」に再編し、技術を生み出すための研究開発体制から、イノベーションを起こすための研究開発体制へと大きくシフトしました。

社会イノベーション協創センタのテーマは、まさに「顧客協創」。東京、北米、中国、欧州の4つの地域で研究者をお客さまの近くに配し、お客さまとともに新たなソリューションの協創に取り組みます。

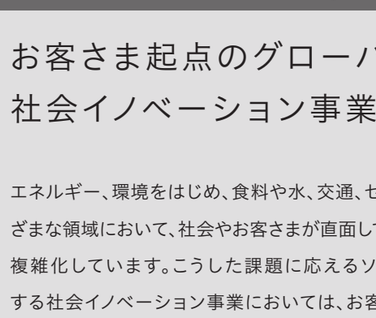
テクノロジーイノベーションセンタのテーマは、「技術革新」。エネルギー、エレクトロニクス、機械、材料、システム、情報通信、制御、生産、ヘルスケアの9つのセンタから構成され、各分野における技術基盤の強化、技術の融合、革新的製品の創出によって、顧客協創を後押しします。

基礎研究センタのテーマは、「基礎探索」。未来社会の課題を見据えた長期的なビジョンに立って最先端の研究開発を進めるとともに、さまざまな研究機関や大学、国や地域などとの連携によるオープンイノベーションを通じて、次なるイノベーションの芽を創生し、新たな事業領域を開拓します。

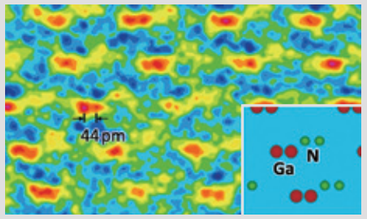
日立は、このような研究開発体制のもと、お客さまとともに課題を見いだし、それに応える革新的なソリューションを提供する社会イノベーション事業を通じて、これからも社会やお客さまの課題解決に貢献していきます。

原子分解能・ホログラフィー電子顕微鏡

材料内部の電磁場を観察できる世界最高分解能（43ピコメートル）の電子顕微鏡を開発しました。本装置を活用し、画期的な先端機能性材料の開発を行うとともに、基礎科学の発展にも寄与していきます。



原子分解能・ホログラフィー電子顕微鏡装置の概観



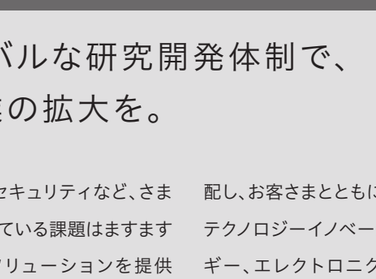
ローパスフィルタ像　原子モデル

GaN結晶の観察例

本開発は、最先端研究開発支援プログラムにより、独立行政法人日本学術振興会を通じて助成されたものです。

「組織活性度」を計測できるウェアラブルセンサ

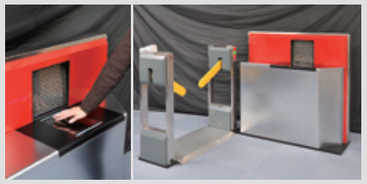
人間行動データを取得、解析し、組織生産性に強く相関する「組織活性度」を計測できる新ウェアラブルセンサを開発しました。経営施策や職場環境の有効性を客観的に評価できます。



ウェアラブルセンサ

ウォークスルー型指静脈認証技術

高精度な指静脈認証をウォークスルー型セキュリティゲートへ適用し、高いセキュリティが必要な大型施設でもスムーズな本人確認、なりすまし防止を実現します。



開発したウォークスルー型指静脈認証ゲート

社会システム最適化に向けた新型計算機

最適化問題を物理現象に写像して効率よく解く室温動作可能なイジング計算機を開発しました。

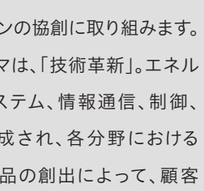
イジングモデル

半導体イジングチップ

高エネルギー密度型リチウム電池の要素技術

電気自動車の走行可能距離を従来の約2倍にする電池技術を開発しました。

本技術の一部は国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業を受けて開発したものです。



開発した電池の構成

ストレージプラットフォーム

ストレージ仮想化技術により、交換や災害発生時でも止まらない高信頼クラウドを実現します。

Virtual Storage Platform G1000

「2014年 日刊工業新聞 十大新製品賞 本賞」受賞

「2014年 日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経産業新聞賞」受賞

1910

❶

1910（明治43年）
創業、5馬力誘導電動機を完成（写真❶）
1911（明治44年）
2kVA変圧器を完成
1914（大正3年）
交流電流計・電圧計の製作を開始
1916（大正5年）
10,000馬力水車を完成
扇風機の製作を開始

❷

1920

1924（大正13年）
ED15形電気機関車を完成（大型の国産第1号）（写真❷）

1930

1930（昭和5年）
柱上変圧器の製作を開始
1931（昭和6年）
10,000A水電解槽を完成
1932（昭和7年）
エレベーターの製作を開始
電気冷蔵庫の第1号を完成（写真❸）
1933（昭和8年）
23,600馬力イルグナセットを完成

❸

1940

1940（昭和15年）
5,000回線私設自動交換機を完成
1943（昭和18年）
85,000kWフランシス水車、
70,000kVA交流発電機を完成
1949（昭和24年）
U05パワーショベル第1号機を完成

1950

1951（昭和26年）
6,500kWカプラン水車・7,000kVA交流発電機を完成（国産初の傘形発電機）
1952（昭和27年）
21,000kW2段タービンポンプを完成
1953（昭和28年）
純低圧式300m³/h空気分離装置を完成
55,000kW水素冷却式タービンを完成
1954（昭和29年）
大型ストリップミル国産第1号機を完成
1955（昭和30年）
10万kWフランシス水車、93,000kVA交流発電機を完成
1956（昭和31年）
DF90形ディーゼル電気機関車を完成（国産初）
1958（昭和33年）
6石トランジスタ超小型ポータブルラジオを完成
ブリュッセル万国博でHS-6型電子顕微鏡・
HM-3型電子顕微鏡がグランプリを受賞（写真❹）
1959（昭和34年）
HITAC301電子計算機（トランジスタ使用）を完成

❹

1960

1960（昭和35年）
キュービックタイプ冷蔵庫を開発
1961（昭和36年）
全自動洗濯機を開発
日立実験用原子炉を完成
1962（昭和37年）
発熱自硬性鋳型を開発
1963（昭和38年）
265,000kW衝動再熱式
クロスコンパウンド式タービンを完成
1964（昭和39年）
東海道新幹線用電車を製作
国鉄用座席予約システムを開発
羽田・浜松町間用モノレールを完成
1965（昭和40年）
HITAC5020システムを完成
希土類蛍光体使用19型90度偏向カラーブラウン管を完成
1966（昭和41年）
シリコントランジスタのLTP処理法を開発
1967（昭和42年）
ドライタイプルームエアコンを開発
1968（昭和43年）
超高速論理ハイブリッドLSIを開発
制御用電子計算機HIDIC100を完成
300m/min超高層ビル用エレベーターを完成
1969（昭和44年）
銀行オンラインシステムを完成
オールトランジスタカラーテレビを開発・量産化
Lo-D2ウェイスピーカーシステムを開発

1970

1970（昭和45年）
新幹線運転管理システム（COMTRAC）を開発（写真❺）
1971（昭和46年）
大容量（1GB）ファイル記憶装置を完成

❺

1973（昭和48年）
新型撮像管サチコンを開発
1974（昭和49年）
無収差凹面回折格子用数値制御ルーリングエンジンを開発
47万kW国産第1号原子力発電設備を完成（写真❻）
半導体組立の自動化（LSI・トランジスタの
ワイヤボンディングの自動化）を実現

❻

1975（昭和50年）
高性能伝熱面（サーモエクセル）を開発
日立新型圧延機HC-MILLを開発
Mシリーズ大型コンピュータシステムを完成（写真❼）
1976（昭和51年）
世界初の光通信システム実証試験に成功
1977（昭和52年）
高速アミノ酸分析計（837型）を開発
新型転換炉原型炉「ふげん」の建設を完成
1978（昭和53年）
高分解能電界放射型電子顕微鏡
（分解能世界記録）を開発
固体撮像素子小型カラーカメラの試作を完成
1979（昭和54年）
HITAC Mシリーズ200Hを完成

❼

1980

1980（昭和55年）
北海道・本州間電力連系用300MW交直変換設備の完成
1982（昭和57年）
電子線ホログラフィーによるミクロ領域の磁場観察を世界で初めて実現
1983（昭和58年）
スクロール圧縮機搭載空調機の開発
1984（昭和59年）
改良標準型BWR国産第1号機の完成
256kビットDRAMの量産化（写真❽）
1985（昭和60年）
臨界プラズマ試験装置JT-60の完成
超高精細カラー表示CAD/CAEシステムの開発（写真❾）
1986（昭和61年）
HITAC M-68Xシリーズの完成
1987（昭和62年）
予見ファジィ制御の実用化
カラー液晶投射式大型ディスプレイ装置の完成
1988（昭和63年）
4脚動歩行ロボットの開発
1989（平成1年）
世界最高速の超電導コンピュータの開発
超電導MRイメージング装置の開発

❽

❾

1990

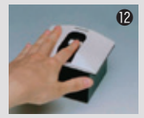
1990（平成2年）
超大型汎用コンピュータ「HITAC M-880プロセッサグループ」の開発
高精細TFTカラー液晶ディスプレイの開発
1991（平成3年）
世界最大容量（狭軌道）インバータ式電気機関車の開発
アバランシェ増倍型撮像管「ハーピコン」の開発
1992（平成4年）
基幹系500kV変電所システムの完成
走査トンネル顕微鏡を用いた原子操作・原子配列状態観察基本技術の開発
1993（平成5年）
高速新幹線電車300系の開発
単一電子メモリーの室温動作に世界で初めて成功
キャピラリーアレイDNAシーケンサーを開発
1994（平成6年）
日立オリジナル32ビットRISC SHマイコンシリーズの開発
クリーンATMの開発
1GビットDRAMの試作に成功
1995（平成7年）
超広視野角スーパー TFT液晶ディスプレイを開発（写真❿）
10Gビット/s光通信装置の開発
暗号アルゴリズム「MULTI 2」の開発
1997（平成9年）
4.7GB DVD-RAM基本技術の開発
心臓疾患検査用心磁計測技術の開発
ガン治療用小型陽子線加速器の開発
1998（平成10年）
320Gビット/s光波長多重伝送システムの開発
PAM制御方式冷蔵庫・エアコンの開発
1999（平成11年）
リチウム二次電池をマンガン系で実用化

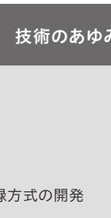
❿

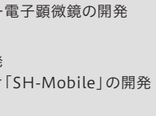
2000

2000（平成12年）
約6.45cm²（1インチ平方）当たり52.5Gビットの垂直磁気記録方式の開発
分解能49.8ピコメートルのホログラフィー電子顕微鏡の開発
2001（平成13年）
モバイルWebゲートウェイシステムの開発
携帯電話向けアプリケーションプロセッサ「SH-Mobile」の開発
2002（平成14年）
世界最小0.3ミリ角の非接触ICチップを開発（写真⓫）
小型遺伝子多型解析装置を開発
2003（平成15年）
小型・高速・高精度の指静脈認証技術の開発、製品化
（写真⓬）
光トポグラフィによる新生児脳機能計測に成功
小泉フェロー「ローマ法皇庁科学アカデミー 400周年
記念シンポジウム」で講演
2004（平成16年）
電池寿命1年以上、
世界最小容積のセンサネット用端末の開発
高温無鉛はんだペーストの開発
2005（平成17年）
爆発物探知装置の開発（米国運輸保安局認証取得）
人と対話して行動する2輪走行ロボット「EMIEW」を開発し「2005年日本国際
博覧会（愛・地球博）」で披露
2006（平成18年）
シリコンの薄膜素子に電流を流すことによって発光する現象を確認
光トポグラフィを用いたブレイン・マシン・インタフェースの原理実験に成功
垂直磁気記録方式を採用した2.5型HDD量産化
2007（平成19年）
世界最小0.05ミリ角の非接触ICチップを試作
スピン注入磁化反転方式を用いた2メガビットの不揮発性RAMチップの試作
小型軽量な対話型ロボット「EMIEW 2」を開発（写真⓭）
2008（平成20年）
高速ディーゼルハイブリッド鉄道車両向けリチウムイオン
バッテリーシステム技術の開発
レアメタルを用いない高効率の小型モータ技術を開発
2009（平成21年）
3kV級SiCダイオードの試作
車載用リチウムイオン電池の開発（写真⓮）
薄型指静脈認証技術の開発

⓫


⓬


⓭



⓮

2010

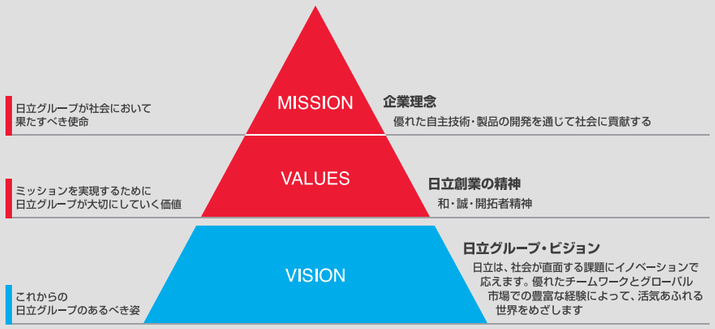
2010（平成22年）
データセンタの省電力化技術を開発
レアアースのリサイクル技術を開発
スピン流の制御・観測に成功
2011（平成23年）
小泉英明フェローが中国工程院の院士に選出
スポットスキャニング方式の陽子線がん治療システム（PBT）が国内製造認可
広域ネットワーク（WAN）の高速化技術開発
2012（平成24年）
「電界放出形電子顕微鏡の実用化」が「IEEEマイルストーン」に認定
レアアースを用いない産業用11kW高効率永久磁石同期モーターを開発
再生医療向けヒト細胞シート自動培養装置を試作
2013（平成25年）
自律走行する一人乗りの移動支援ロボット「ROPITS」を開発
生体情報を用いた電子署名技術を開発
高線量率環境対応のガンマカメラを開発
2014（平成26年）
原子分解能・ホログラフィー電子顕微鏡を開発
「組織活性度」を計測できるウェアラブルセンサを開発
ウォークスルー型指静脈認証技術を開発

グループ一丸となって、地球社会の課題に応えるイノベーションを。

誰もが、より安全・安心に、より快適・便利に暮らせるように、社会が直面しているさまざまな課題にイノベーションで応えていく。それが、日立が得意とし、グローバルに展開している社会イノベーション事業です。その根底には日立創業の精神である「和・誠・開拓者精神」と、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念が脈々と息づいています。社会イノベーション事業の原動力となるのは、長年培ってきたインフラ技術と最先端ITの融合。それは、日立グループが広範な事業領域で積み重ねてきた経験と技術を掛け合わせることによって生み出すシナジーであり、個性的な企業が集結した日立グループならではの特長です。これからも日立グループは、優れたチームワークのもとグループシナジーを最大限に発揮し、世界各地のお客さまや社会が抱える課題を解決することにグループ一丸となって取り組んでいきます。

日立グループ・アイデンティティ

「日立グループ・アイデンティティ」は、日立グループが地域や事業分野を超えて、優れたチーム力を発揮するため、グローバルに共有している理念、価値です。「企業理念」と「日立創業の精神」、そして、これからの日立グループのあるべき姿を示した「日立グループ・ビジョン」を、MISSION、VALUES、VISIONとして体系化したものです。



■ 情報・通信システム
株式会社日立情報通信エンジニアリング
日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社
株式会社日立ソリューションズ
株式会社日立システムズ
Hitachi Computer Products (America), Inc.
Hitachi Computer Products (Europe) S.A.S.
日立金融設備系統(深圳)有限公司
Hitachi Consulting Corp.
Hitachi Data Systems Corp.
Hitachi Information & Telecommunication Systems Global Holding Corp.

■ 電力システム
日立GEニュークリア・エナジー株式会社
三菱日立パワーシステムズ株式会社(*1)
株式会社日立パワーソリューションズ
Horizon Nuclear Power Ltd.

■ 社会・産業システム
株式会社日立産機システム
株式会社日立ビルシステム
株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立プラントコンストラクション
三菱日立製鉄機械株式会社(*1)
日立電梯(中国)有限公司
Hitachi Rail Europe Ltd.

■ 電子装置・システム
株式会社日立ハイテクノロジーズ
日立工機株式会社
株式会社日立国際電気
株式会社日立メディコ(*2)

■ 建設機械
日立建機株式会社

■ 高機能材料
日立化成株式会社
日立金属株式会社

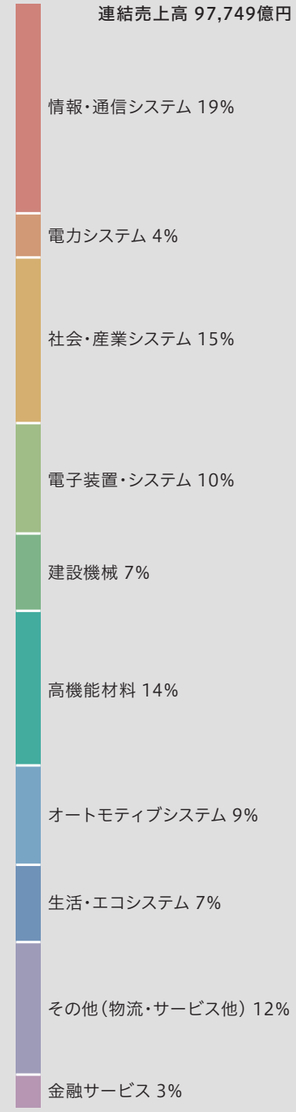
■ オートモティブシステム
クラリオン株式会社
日立オートモティブシステムズ株式会社
Hitachi Automotive Systems Americas, Inc.

■ 生活・エコシステム
日立アプライアンス株式会社
日立コンシューマ・マーケティング株式会社
Hitachi Consumer Products (Thailand), Ltd.

■ その他(物流・サービス他)
株式会社日立エルジーデータストレージ
株式会社日立ライフ
株式会社日立物流
株式会社日立アーバンインベストメント
Hitachi America, Ltd.(*3)
Hitachi Asia Ltd.(*3)
日立(中国)有限公司 (*3)
Hitachi Europe Ltd.(*3)
Hitachi India Pvt. Ltd.(*3)

■ 金融サービス
日立キャピタル株式会社

※社名は2015年3月31日現在。



国際財務報告基準(IFRS)
2015年3月期

(*1)三菱日立パワーシステムズ株式会社、三菱日立製鉄機械株式会社は、当社の持分法適用関連会社です。
(*2)株式会社日立メディコは、2016年4月1日をもって、当社と合併しました。
(*3)Hitachi America, Ltd.、Hitachi Asia Ltd.、日立(中国)有限公司、Hitachi Europe Ltd.およびHitachi India Pvt. Ltd.は、当グループの米州、アジア、中国、欧州およびインドにおける地域統括会社であり、当グループの製品を販売しています。

Corporate Profile

概要

商号	株式会社 日立製作所 Hitachi, Ltd.
設立年月日	大正9年（1920年）2月1日［創業 明治43年（1910年）］
本店の所在地	郵便番号100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 電話（03）3258-1111
代表者	代表執行役 執行役社長兼CEO　東原 敏昭
資本金	4,587億円（2015年3月31日現在）
売上高	18,421億円（2015年3月期）
連結売上高	97,749億円*（2015年3月期）
従業員数	31,375名（2015年3月31日現在）
連結従業員数	336,670名*（2015年3月31日現在）

＊当社の連結財務諸表は、2015年3月期より国際財務報告基準（IFRS）に基づいて作成しています。

Webサイトのご紹介

日立Webサイト

www.hitachi.co.jp

Webサイトでは、会社案内や事業紹介、製品・サービスの紹介、採用情報など、さまざまなコンテンツを公開しています。

日立ブランドチャンネル

www.youtube.com/hitachibrandchannel

日立製作所は、動画投稿サイト「YouTube」上に日立グループ公式チャンネルを公開。日立グループの社会イノベーション事業をはじめ、CSR、歴史・文化、PR活動などを、動画を通して紹介しています。

●記載されている他社の会社名・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。